

Economic Indicators

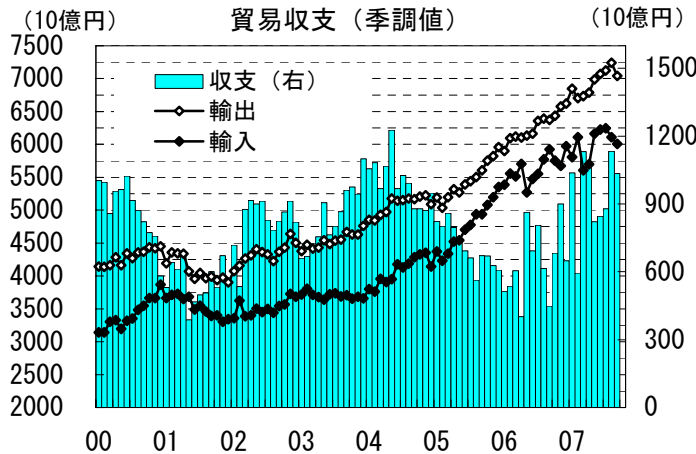
定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2007年9月)

発表日2007年10月24日(水)

～輸入の大幅減速で2ヶ月連続の貿易黒字拡大に～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 柵山 順子
 TEL : 03-5221-4548



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸 出	輸 入	
06年9月	449	6371	5922	1007
10月	683	6435	5752	613
11月	901	6577	5676	908
12月	649	6621	5972	1110
07年1月	1038	6846	5807	-3
2月	594	6703	6108	975
3月	1131	6736	5604	1628
4月	1091	6790	5699	921
5月	822	6986	6164	383
6月	846	7072	6225	1220
7月	878	7124	6246	661
8月	1132	7241	6108	735
9月	1034	7042	6007	1638

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
06年9月	15.2	7.3	7.3	7.5	8.2	13.1	16.9	13.9	2.6	2.7	▲ 2.0	7.7
10月	11.6	9.7	1.7	10.3	▲ 1.3	6.7	17.5	8.8	8.0	19.7	4.3	12.3
11月	12.1	7.8	4.0	7.4	3.2	6.1	7.6	5.0	2.4	5.3	▲ 6.6	6.0
12月	9.8	5.3	4.2	6.7	▲ 2.6	8.4	7.8	3.2	4.4	▲ 10.6	8.7	7.2
07年1月	19.0	9.4	8.8	0.7	▲ 4.8	23.0	10.3	10.4	▲ 0.1	15.8	0.5	0.2
2月	9.7	11.1	▲ 1.3	1.7	▲ 0.4	2.5	10.2	2.2	7.9	3.8	4.3	16.5
3月	10.3	9.6	0.6	▲ 4.2	▲ 3.7	7.4	0.2	7.3	▲ 6.7	8.8	0.6	▲ 13.0
4月	8.2	7.8	0.4	▲ 13.1	6.6	7.0	3.5	10.3	▲ 6.1	21.2	▲ 0.5	▲ 4.7
5月	15.1	8.4	6.2	▲ 13.2	8.8	12.1	15.6	14.5	0.9	12.5	8.8	2.2
6月	16.2	9.7	5.9	▲ 8.3	7.8	13.4	10.8	17.3	▲ 5.5	▲ 4.4	5.0	▲ 5.2
7月	11.8	9.0	2.5	▲ 10.4	2.6	10.6	17.1	17.1	▲ 0.0	6.1	15.1	1.3
8月	14.5	5.8	8.2	▲ 5.2	4.6	13.1	5.8	12.0	▲ 5.6	▲ 10.7	▲ 0.3	▲ 5.2
9月	6.5	▲ 0.1	6.6	▲ 11.8	9.7	7.8	▲ 3.2	6.2	▲ 8.9	▲ 7.7	0.3	▲ 11.1

○9月の貿易黒字額は2ヶ月連続で拡大

9月の貿易収支は1兆6378億円(原数値)、前年比+62.7%と2ヶ月連続で増加した。輸出金額をみると、米国向けがマイナスの伸びとなる中、EU向けやアジア向けが好調だった自動車や通信機等を牽引役に全体では前年比+6.5%(前月同+14.5%)と堅調な推移が続いた。一方、輸入金額をみると、価格高騰の影響からか原油の輸入数量が大幅に減少したため、全体では前年比▲3.2%(前月同+5.8%)と43ヶ月ぶりに減少した。昨年9月と比べて、円高になっていることや休日が2日間多かった影響で、輸出入金額はそれぞれ伸びが抑制された。そうした中、新興国を中心とした世界経済の拡大を背景に輸出は堅調な推移を続けたため、黒字額は前年を大きく上回った。

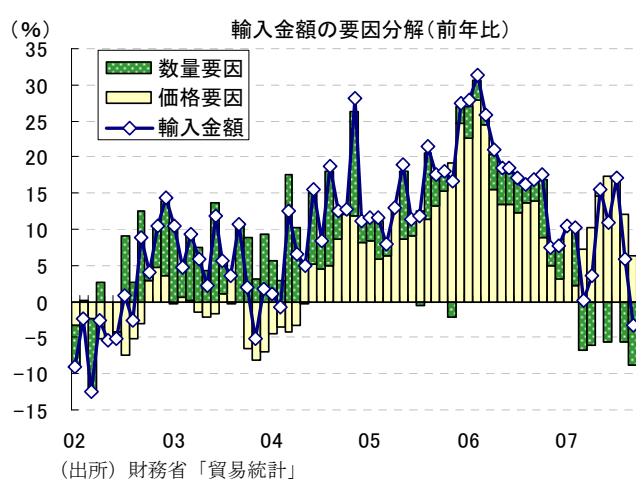
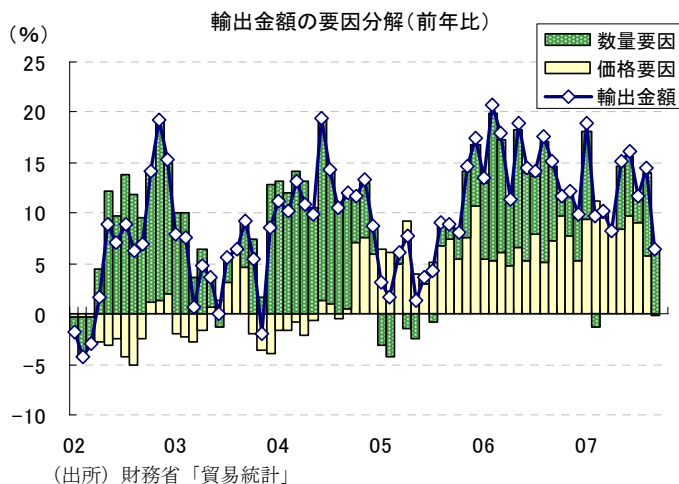
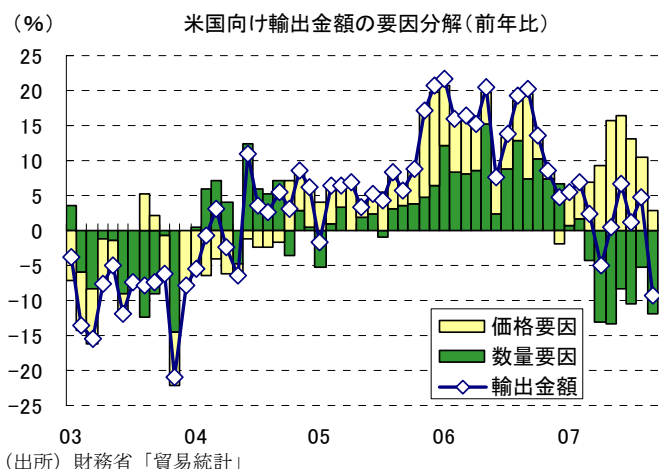
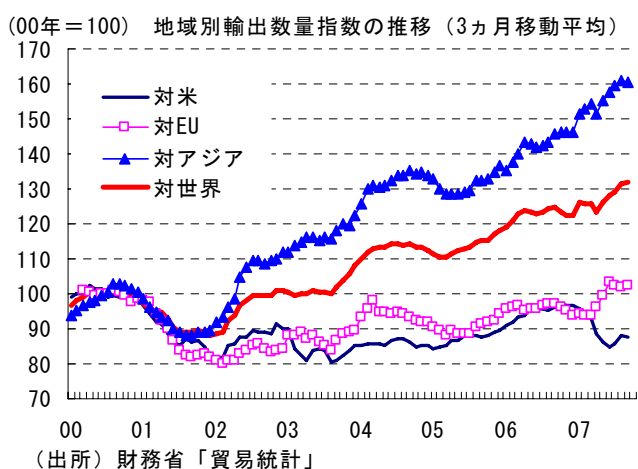
○7-9月期の外需はGDP押し上げ要因に

数量ベースの輸出は前年比+6.6%(前月同+8.2%)となった。前月から伸びは鈍化したが、前月の高い

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

伸びの反動の範囲内と考えられ、世界経済の拡大を背景に輸出は好調さが続いているといえる。7－9月期でみても輸出数量は4－6月期対比で+3.0%（当社で季節調整）と高い伸びになっている。輸出は4－6月期に減速していたが、7－9月期には米国製造業部門の持ち直し等を背景に回復感が強まった。こうした輸出の増加に加え、輸入の伸びが限定的であったこともあり、来月中旬に発表される7－9月期の実質GDPでは、外需は明確なプラス寄与となる模様だ。7－9月期のGDPは個人消費の低迷や住宅投資の急減など内需は停滞した一方、外需が下支えに寄与すると思われる。

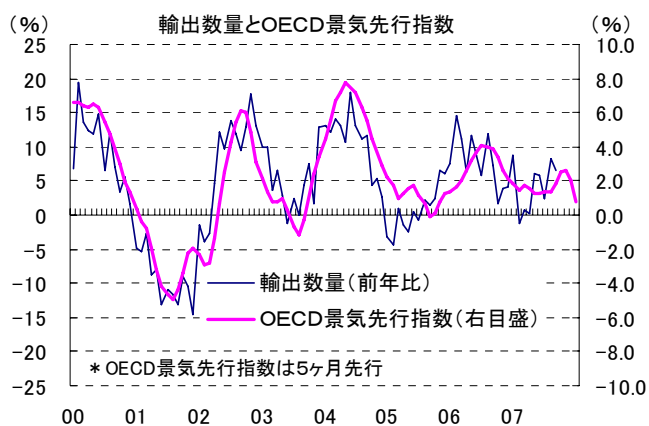
地域別（数量ベース）にみると、米国向け（前年比▲11.8%←前月同▲5.2%）は、自動車輸出の大幅減少によりマイナス幅が再び拡大した。一方、アジア向け（前年比+7.8%←前月同+13.1%）は休日が多かった影響などでやや伸びを弱めているものの、高い伸びを維持した。さらに、EU向け（同+9.7%←前月同+4.6%）が堅調に推移し輸出の下支えとなった。EUおよびアジアの景気がともに好調なことが輸出の増加につながっているといえる。



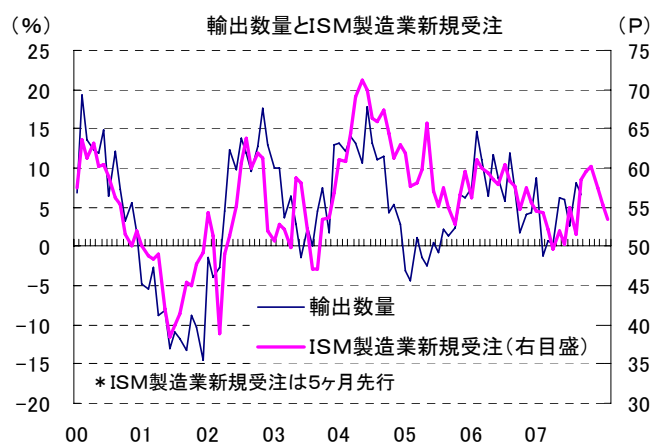
○新興国経済に支えられ、輸出の拡大基調は続く

輸出の先行きについて展望すれば、不安材料が多い。米国景気については、住宅部門の調整に加えて、原油価格の高騰が消費を押し下げるリスクなど、景気下振れリスクが強まっている。また、米国ISM製造業指数やOECD景気先行指数などの先行指標が足元で悪化していることも輸出の先行きに対する懸念材料である。7－9月期は好調に推移した輸出であるが、10－12月期には鈍化するリスクには十分に注意が必要だ。

ただし、米国経済については、基調としては製造業の持ち直しが続いていること、雇用も若干減速しつつも底堅さを維持していること、さらに今後もFRBの迅速な対応が期待できることなどを勘案すると、急失速は避けられると考える。また、新興国景気は好調さが続くだろう。このため、世界経済全体で見れば緩やかな拡大が続き、輸出の拡大基調が崩れることはないと予想する。



(出所) 財務省「貿易統計」、OECD



(出所) 財務省「貿易統計」、ISM